

O-66 腹部緊急手術症例における術後急性肺傷害の発現とシベレスタットナトリウムの治療効果

刈谷豊田総合病院 麻酔科・救急・集中治療部
加古 英介

【はじめに】

ALI/ARDS の基礎病態は多岐にわたるが、原因疾患から直接的肺損傷と間接的肺損傷に分類される。肺炎など直接的な機序を除いた間接的肺損傷の原因として最も頻度が高いのは敗血症であり治療に難渋することが多い。

今回、敗血症/敗血症性ショックを合併した胸腹部緊急手術例を対象とし、術後急性肺傷害の発生頻度、シベレスタットナトリウム（エラスポール）の治療効果などについて検討した。

【方 法】

敗血症を合併した腹部緊急手術症例における術後急性肺傷害の発生頻度、シベレスタットナトリウム（エラスポール）の治療効果などについて後ろ向きに検討した。

調査期間：2000～2005 の 6 年間

対象：敗血症を合併した腹部緊急手術症例

調査内容：ALI/ARDS 発生状況、肺傷害発生例に対するエラスポールの効果（肺機能改善度、ventilator free days（VFD）など）。

【結 果】

全 39 例中 20 例（ALI 8 例、ARDS 12 例）に術後肺傷害を認めた。肺傷害 20 例をエラスポール投与 11 例（E + 群）と非投与 9 例（E - 群）に分けた。手術直後の重症度、肺傷害の程度など両群間に差

はなかった。敗血症治療内容では全例で人工呼吸管理、原因治療の抗菌薬、循環補助としての強心薬が使用されており E + 群で低容量ステロイド補充、ハンプ持続投与が多く施行されていたがその他は差はなかった。治療前後での効果を比較すると P/F 比は E - 群で 195.4 ± 101.0 から 215.9 ± 121.0 であったのに対して E + 群では 185.6 ± 97.2 から 332.9 ± 126.1 へと酸素化能改善で有意な差を認めた。また治療期間 28 日中の人工呼吸器が必要でなかった日数（VFD）でも E - 群が 10.3 ± 11.4 であったのに対し、E + 群では 15.0 ± 10.6 と良好な結果を示した。転帰では両群間に有意差は認めなかったが術後 7 日間の生存率ではエラスポール使用群で良好な傾向が見られた。

【考 察】

敗血症を伴った腹部緊急手術症例では術後に肺傷害を伴うものが約半数に認められた。肺傷害を認めた症例では重症であるものが多く、より集学的な治療が治療が求められた。E + 群と E - 群の比較では、E + 群において短期的な肺機能の改善が認められた。このことより敗血症緊急手術症例では従来の一般的敗血症治療にエラスポール治療を併用すると肺傷害改善度がより向上することが示唆され、投与開始時期はより早期からの使用が効果的であることが予想された。